

市民がつくる 音楽文化

昨年3月アルカスSASEBOがオープンし、著名な演奏家のコンサートなどを鑑賞する機会も増えましたが、音楽文化が市民の中に本当に根付くためには、市民自らの音楽活動が必要で。

近年、サンセット99ライブさせば、市民オペラ、させば童謡フェスティバルなど市民の手づくりの音楽イベントが増えています。これらのイベントを支えているのは、市民演奏家たちのたゆまぬ日々の練習です。

今回は、佐世保ゆかりの人々の演奏で注目を浴びた市制百周年開幕記念式典や、SASEBO音楽市場での演奏風景のほか、立神音楽室や市民文化ホールなどでの練習の様子などを紹介します。



市制百周年

開幕記念式典

ことし4月1日アルカスSASEBO大ホールで、開催されました。

幕が上がると、オーボエと2台のピラホンの静かな音色が響く中で、舞台中央のスクリーンに、佐世保の百年間にわたる歴史的な場面が次々と映し出されました。

総合司会・早霧せいなさんの開会のことばに続き、市長があいさつし、市政百年の歩みと式典の意義を述べました。来賓紹介、知事のあいさつ、姉妹・友好都市紹介の後、画面いっぱい新しく市の花となった「カノコユリ」が映し出されました。

次に、市長がことし百歳になる宮木イ子さんと原九州男さんの手を引いて再び舞台上に現れ、百歳を祝うキャンドルに点火しました。

そしていよいよアトラクションの開演です。まずは、トライ・ヴォイセスの3人の女性たちと佐世保の演奏家たちが一緒に「時間」の贈り物」と題する軽やかなジャズ演奏でスタートしました。

さらに途中から、皆瀬小学校のジャジーキッズが加わり、佐世保ならではの世代を超えたジャズ演奏が繰り広げられました。

次に登場したのは、スタート・ワンで、2人の少年の激しいブレ



アルカス SASEBO

イクダンスと少女たちのリズムカ
ルな踊りが観客を魅了しました。
舞台は一転して静かになり、童
謡フェスティバルなどおなじみの
のたいらいさおさんの明るい歌声
が会場に響きました。歌は地元の
童謡作家・新谷智恵子さんが作詞
した「風をください」などでした。

そして、この日の圧巻は、佐世
保出身の琴奏者丸田美紀さんの奏
でる「美しき天然」でした。琴の
静かな調べに、木村暢子さんとト
ニー・ボットさんのピアノが加
わってジャズ風のアレンジに変わ
り、再び琴の独奏で終わりました。

突然、舞台は激しい爆竹の音と
明るい照明に照らし出され、さ
せば飛躍年隊の登場です。YOSA
KOIソーラン節に合わせ、舞台
から客席へと踊りが繰り広げられ
ました。感動の余韻が冷めやらぬ
中で、フィナーレとなりました。

市制百周年記念

SASEBO音楽市場

4月6日から29日まで、音楽市場がアルカスSASEBOや鳥瀬公園、松浦公園、市亜熱帯動植物園、市内の喫茶店などで開催されました。

第6回を迎えることは、佐世保をはじめ福岡や佐賀、長崎から100を超えるバンドが集い、街全体が音楽に包まれました。ロック、カントリー、ジャズ、民謡、吹奏楽など幅広い内容で、演奏する人も聞く人もそれぞれに自分の音楽を楽しみ、音楽が確実に市民の文化として根付いてきているようです。



音楽は対話



市制百周年開幕記念式典で演奏したトニー・ボットさん

アメリカ・シカゴ生まれの33歳です。兄や妹たちもトランペットやフルートなどを演奏します。父はロックからカントリーまでさまざまな音楽会に連れて行ってくれました。そんな環境の中で、私も気ままにドラムをたたいていました。高校のときにピアノを始め、南カリフォルニア大学でクラシックのパーカッションを専攻しました。

大学院卒業後しばらくして来日し、ハウステンボスで働きました。1995年に結婚し、現在2人の子供がいます。日本人は働くときも、遊ぶときも一生懸命ですが、息抜きやアドリブも必要です。音楽はまず楽しむことが大事です。演奏しているとお客さんが楽しんでいっているかどうか感じ取ります。技術は会話の語彙のようなもので、語彙が豊富ならそれだけ自分を表現できます。しかし、音楽は自分自身との対話であり、お客さんとの対話です。いかに音楽を通して喜びを分かち合えるかが大切です。音楽は、私にとって血液のようになってはならないもので、人生そのものです。

佐世保にはたくさんの演奏家がありますが、もっと小さな練習会場や、コンサートが増えれば良いと思います。これからも、佐世保を中心に九州各地でプロ活動を続けていきたいと思っています。



立神音楽室



ラフ&ルーズ



RAY-KISHY (レイキシー)

利用者として一言

立神音楽室で練習を始めてから14年になります。今でも週に1回仲間たちと練習しています。ここは街の中にある音楽スタジオに比べて広く、思い切り音が出せて演奏しやすいです。仕事はきついですが、みんなと音楽をやっていると発散できて、すっきりします。



ラフ&ルーズ
金子国和さん

バンドは福岡の学生時代から始めました。ビートルズからクラシックまでジャンルを超えて、その場で接点があれば何でも歌います。プロにはなれませんが、音楽が本当に大好きです。

音楽市場では、ロックを3曲歌いました。表舞台には出ずに、裏方に徹したスタッフのおかげでできたと思っています。これからもアマチュアの手作りの良さを大事にしてこのイベントを続けてほしいです。



市民文化ホール



佐世保市民管弦楽団



佐世保吹奏楽団

音楽は音色



市民管弦楽団事務局長 蓮田睦美さん

高校1年のとき、ホルンを始めました。夫とは市民管弦楽団で知り合い、現在中学校1年の息子と小学校4年の双子の娘がいます。

現在部員は50人ぐらいです。レパートリーは、クラシックからポップスまで幅広い内容ですが、弦楽奏者が不足しています。音楽人口を増やすには、やはり指導者が増えることが大切です。佐世保出身のプロ演奏家たちも、ぜひ佐世保に住んでほしいですね。市民文化ホールは、天井が高くて音もよく響くし、練習会場としても使いやすいです。

「クラシックは難しい、敷居が高い」などの意見を聞きますが、とても心地よいものです。年に2度の定期演奏会のうち1回は、お客さまが「この曲を聴いてみたい、この曲なら知っている」といった曲を選んでいきます。また、地元のピアニストや声楽家との共演もして、地元で根差した演奏を心掛けています。

オーケストラでホルンを吹いているときが、一番幸せです。オーケストラは、みんなで一緒につくり上げる喜びもあります。音楽で大切なものは、技術的なものもありますが、音色だと思います。

聴くのも楽しいですが、演奏する側に回ればもっと楽しいのに、と思います。興味ある人はお客さんとしても、団員としてもぜひ来てください。

皆瀬小学校ジャジーキッズ



4月26日、島瀬公園での演奏を2日後に控えて練習にはげむ、皆瀬小学校ジャジーキッズに会いに行きました。

校舎の2階の端にある音楽室に入ると、にぎやかなスイングジャズが聞こえてきました。ドラムにピアノ、トランペット、トロンボーンなど20人ほどの子どもたちが元気いっぱい演奏しています。子どもたちの指導に当たるのは、福田貢教諭と藤村真智子教諭です。

一曲終わると、福田先生がアドリブ演奏の希望者を募り、2台のドラムの掛け合いとなりました。福田先生は「ワンパターンになったら演奏をやめるように」との指示を出しました。

演奏会に参加するのは、ことし卒業した中学1年生を加えて40人程度。皆瀬小学校ジャジーキッズと言え、昨年日本のジャズ界の第一人者渡辺貞夫さんと共演して

人々を驚かせました。演奏が終わってからはユーフォoniumを演奏する6年生の西田千尋さんに話を聞きました。

放課後の練習はきつくないかとの質問に、「勉強は少し苦手ですが、音楽は楽しい。もっといろんな曲を演奏してみたい」との答えが返ってきました。渡辺貞夫さんについては、「普通のおじさんだけど、演奏はすごい」とのこと。

福田先生に指導法を尋ねると、「約束事を無視してはいけないが、約束事は少ない方がよい。例えその子が吹ける音が少なくても、その子に合った編曲を心掛けていきます。また、リズム感があれば何とかなる」との答えでした。



渡辺貞夫さんと共演

佐世保吹奏楽団

市内在住の吹奏楽愛好者が集い、昭和58年に発足しました。現在団員約60人。毎週水・土曜日19時30分から市民文化ホールで練習。毎年、「定期演奏会」と「ポップスコンサート」を開催し、「駅前まつり」「SASEBO音楽市場」など地域イベントにも参加しています。レパートリーはオリジナルの吹奏楽曲をはじめ、マーチ、クラシック、ポピュラーなど多彩。「吹奏楽コンクール九州大会」に18回連続出場し、平成9年には同大会で九州代表に選ばれ、全国大会に佐世保から初めて出場。連絡先 佐世保吹奏楽団事務局・秋永さん(☎093093)

佐世保音楽年表

慶応元年(1865) 相浦の大潟新田が完成。このころから大潟新地節が歌われる
明治20年ごろ 佐世保鎮守府建設工事開始にともない、「軍港草分け歌え唄」が盛んに歌われる
明治35年 私立佐世保女学校の唱歌教材として、武島羽衣の詩「美しき天然」に田中穂積佐世保海兵団楽長が作曲
昭和2年 童謡詩人の野口雨情が佐世保を訪れ、「大野小学校校歌」と「弓張岳」を作詞
昭和6年 野口雨情と作曲家藤井清水が、佐世保で初めてのレコード歌謡「佐世保小唄」と「佐世保メロデー」を作る
昭和44年 合唱と管弦楽による交響詩西海讃歌(團伊玖磨作曲、藤浦洗作詞)初演
昭和55年 第1回市民オペラ開催
平成3年 させば童謡フェスティバル、サネット99ライブさせばジャズフェスティバル始まる
平成8年 第1回SASEBO音楽市場開催
童謡作家・新谷智恵子さんが、詩集「風をください」で日本童謡賞を受賞

佐世保市民管弦楽団

佐世保にもオーケストラを、との気運が高まり、昭和38年に発足しました。現在団員約50人。毎週月曜19時から市民文化ホールで練習。レパートリーはクラシックからポピュラーまで幅広い。毎年2回定期演奏会を開催。昨年はアルカスSASEBOの開館記念式典で演奏し、ことし3月には市制百周年記念のプレイベントとしてモーツァルト作曲の歌劇「魔笛」を演奏しました。11月には「全国豊かな海づくり大会」で、両陛下の前で御前演奏の予定です。連絡先 佐世保市民管弦楽団事務局・蓮田さん(☎093093)